

令和 7 年度平塚市地域包括支援センター事業計画書

【重点目標「地域課題」】

| | |
|-----------|----------|
| あさひきた | ・・・P. 1 |
| あさひみなみ | ・・・P. 2 |
| おおすみ | ・・・P. 3 |
| 倉田会 | ・・・P. 4 |
| ごてん | ・・・P. 5 |
| サンレジデンス湘南 | ・・・P. 6 |
| とよだ | ・・・P. 7 |
| ひらつかにし | ・・・P. 8 |
| 富士白苑 | ・・・P. 9 |
| ふじみ | ・・・P. 10 |
| まつがおか | ・・・P. 11 |
| みなと | ・・・P. 12 |
| ゆりのき | ・・・P. 13 |

＜重点目標＞【地域課題】

| | | | |
|--|--|---|---|
| 包括名 | あさひきた | 課題番号 | ア |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 圏域の医療機関や住民からの通院に関する相談が増える等、通院が困難になる前時に相談できる場所として包括の認知が進んでいる | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | |
| 圏域内にクリニックや歯科医院は多くあるが、アクセスの悪さや身体機能・理解力の低下、経済的理由から受診をしなかったり途切れていたりする方が多くなってきている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・独居世帯が増加し、家族も遠方のため通院の支援が受けられない方も多。相談内容としても、介護保険、認知症に次いで「医療・保健」が多く、病状や認知症が悪化し周囲から相談が入るが、かかりつけ医がなく支援が困難になるケースが増えているため。 ・かかりつけ医は患者様の様々な情報を蓄積でき、状態の変化に気づきやすいため、必要に応じて包括支援センターに相談があれば、早い段階で介入することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・人口約22083人。高齢者数は6,593人。高齢化率29.9% ・医療機関32箇所（特に河内、纏、徳延に多い） ・新築戸建が多く総人口・高齢者人口ともに増加傾向。 ・介護認定率は14.9%（R5.9）13圏域の中で13番目。 ・日向岡や公所は坂が多く身体機能の低下により通院が難しく、経済的理由や判断力の低下から受診が途絶えてしまっている現状を、訪問時に判明することがある。 ・クリニックから、当包括で対応が必要な方の相談が少ないが定期的にある。 | |
| 5 実施計画 | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 圏域内の医療機関や通いの場に参加している方が、包括へ相談できる内容を理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ①医療機関へ引き続き挨拶回りを行うと共に、包括の役割を周知していく。（圏域内32か所） ②通いの場へ包括の役割を周知していく。（年間10件） ③業務での訪問時にかかりつけ医を持つ必要性を今後も周知していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ①6月～3月にかけて実施。 ②前期5件 後期5件。 ③随時 |
| 令和8年度 | 圏域内の医療機関や住民の方が受診に関する相談を包括へする事が出来る。 | <ul style="list-style-type: none"> ①医療機関へ引き続き挨拶回りを行うと共に、包括の役割を周知していく。（圏域内32か所） ②通いの場へ包括の役割を周知していく。（年間10件） ③業務での訪問時にかかりつけ医を持つ必要性を今後も周知していく。 ④在宅医療とかかりつけ医の必要性についてのチラシを作成し、年2回自治会回覧板にて周知行う。（年2回） | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|--------|
| 包括名 | あさひみなみ |
|-----|--------|

| | |
|------|-----|
| 課題番号 | (ア) |
|------|-----|

| | |
|------------------------|---|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 地域の人に包括を知ってもらい、認知症予防、介護予防のための教室に新たな参加者が増える。 |
|------------------------|---|

| | | |
|--|---|--|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| <p>地域の高齢化率も34.2%と平塚市の高齢化率29%より高く市内で2番目の高値。比例して認知症高齢者の増加が予測されるため、認知症の普及・啓発、早期対応、予防のための仕組みづくりが必要。また、家族や近隣との関係性も希薄になってきているため、見守り等のネットワークの構築が必要。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者人口が増えることに比例して認知症高齢者が増えると、消費者被害や契約手続き、財産管理、高齢者虐待の増加、孤立死、行方不明者の増加、車の運転による事故など、生活の中での支障が増えてくることが想定される。高齢者の中には、スマートフォンやパソコン操作が苦手な方も多く、新しい情報がキャッチできない可能性がある。 ・高齢者同士の交流が減っている地域では、認知症に関する情報交換や共感が生まれにくく、孤立感が増してしまう可能性がある。 ・認知症になりたくないと思っている住民もあり、自分事として考えにくいこと。 | <p>高齢者人口6,103人、高齢化率34.2% 県営住宅、市営住宅があり、独居高齢者や高齢者世帯が多い。 築40～50年の集合住宅もあり開設当初から住んでいる人も多く高村地区は高齢化率が60%と高くなっている。</p> |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|---|--|---|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 身近な相談場所として包括が認識される。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 市内包括の一覧のリーフレットや包括便りを、地域の集会で配布。公民館や企業等へ出向きチラシを置いていただく。 2. やまびこ情報局での情報の発信を依頼していく。 3. 地域のイベント（お祭りなど）に参加し、認知症に関する情報を提供する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上半期 2. 上半期・下半期 3. イベント開催時12月予定 |
| 令和8年度 | 相談件数が増えて包括の認知度が上がった結果、地域住民と包括が共に認知症予防や介護予防に取り組む事が出来る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民主体のサロンに、認知症予防・フレイル予防の情報提供が出来る。 2. 協議体や地域団体等の会議で地域の資源を把握し、相談があった時に、住民主体のサロン（認知症予防・介護予防）の案内が出来る。 3. チームオレンジメンバーと共にカフェを開催する。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | | | | | |
|---|--|--|--|------|-----|
| 包括名 | おおすみ | | | 課題番号 | (ア) |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | ①地域住民に、日常的な見守りや住民同士の安否確認の方法について普及している。 ②心配事を気軽に相談できる地域のネットワークづくりが進んでいる。 | | | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | | | |
| ・地域の高齢化に伴い、独居高齢者だけでなく高齢者のみの世帯が増加している。役員を務められないため自治会からも脱退し、孤立している世帯が多いことや地域の関係性の希薄化などにより、日常的な相互の見守りがなく異常に気付きにくい。地域の見守りが住民の負担や不快感なく行えるよう、見守り体制の整備や支援が必要である。 | ・地域の関係性の希薄化があり、日常的な見守りを依頼できない。 ・個人情報保護に敏感な感情があり、家のことを知られたくない一方で、他者のことに介入したくない意識もある。 ・孤独死に伴う特殊清掃など、予防できる手間は予防したいという住民感情がある。 ・近所で気になる行動を見ても、積極的な介入を避けたり、介入することに戸惑いを感じている。 | 人口 12,665人。高齢化率 35%。市街化区域と市街化調整区域の中に田園地帯もある。市街化区域の高齢化が急速に進んでおり、高齢化率50%を超える地区がある。 自治会は14あるが加入者は減少しており、賃貸の集合住宅では自治会が解散しているほか、外国人居住者が増加し住民同士の交流が減少している。 | | | |
| 5 実施計画 | | | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 | | |
| 令和7年度 | 地域の実情を把握する。 ・フォーマルサービス以外の見守りや安否確認の方法について、情報交換の場があり、支援団体が課題を共有できる。 ・認知症に対する理解を深める機会を持つ。 | 1. 地域ケア会議や協議体の中で議題を共有し、日常的な見守りの方法について知り、現状把握する。 2. フォーマルサービスの種類や活用について、地域団体や住民に周知する。 3. 民生委員や自治会役員、地区社協、福祉村と連携し、地域の実情と関係性について把握する。 4. 地域住民同士の見守りで可能なこと、不可能なことを知る。 5. 多世代に向けて認知症サポーター養成講座や認知症予防教室を開催し、周知に務める。 | 1. 岡崎：年3回 城島：随時 2. 協議体開催時・包括広報発行時 3. 4. 協議体開催時 岡崎：年3回 城島：年6回（民児協定例会） 5. 年1回（サポーター養成講座） 年12～24回（認知症予防教室） | | |
| 令和8年度 | フォーマルサービスと地域の見守り体制を組み合わせた何らかの提案ができる。 ・対象者がどのような見守りネットワークを活用して安否確認を行っているか把握する。 ・地域の中で気軽に相談ができ、声をかけあうことができる。 | 1. フォーマルサービスを中心とした見守りや安否確認を利用する対象者を把握する。 2. 地域の見守り・安否確認を利用する対象者を把握する。 3. 福祉村や地区社協、民児協、老人会などが出席する協議体、地域ケア会議を開催する。課題を共有しフォーマルサービスについて、出席者が把握し、見守り体制を選択できるように務める。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 | | |

<重点目標>【地域課題】

| | | | | | | |
|---|--|---|-------------------|------|---------|--|
| 包括名 | 倉田会 | | | 課題番号 | (ア) (イ) | |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 住み慣れた地域で生活をするために多世代が自分ごととして共に考え、支え合える地域となれるよう、包括主催で若い世代と高齢者が定期的に地域課題について意見交換できる場ができています。 | | | | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | | | | |
| <p>・市内で一番高齢者人口が多い地域だが、高齢化率は一番低い。 大型商業施設が近隣に進出してきたことで、若い世代(マイホーム購入者)の転入も増え活性している状況もあるが、他市町村からの転入ということで地域資源への認識や近隣同士の助け合いという点において劣っている。</p> | <p>・他市町村からの転入者の増加により、地域とのつながりが希薄であり高齢者と若い世代の融合という点についての課題がある。</p> | <p>・圏域内の人口31,294人 高齢者数7,649人 高齢化率24.4% 生産年齢人口62% ・13圏域内で高齢者人口が一番多い地域であるが、高齢化率は13番目となっている。 ・大型商業施設の進出もあり、若い世代(マイホーム購入者)の転入も増加傾向となっている。 ・後期高齢者の医療機関の受診率は96%</p> | | | | |
| 5 実施計画 | | | | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 | | | |
| 令和7年度 | 地域で生活を送る多世代との交流を通じて、個のニーズ・地域のニーズを把握していく。 | <ol style="list-style-type: none"> 福祉村や民児協、地区社協へのアプローチにより、地域課題の共有や解決に向けた取り組みを継続する。 若い世代が参加する場(組長会や子育てサロン、企業等)との関わりをもち、地域のニーズの把握や現状を理解してもらう場を作る。 多世代に向けて包括支援センターの機能についての普及啓発を行っていく。 | 1~3. 通年 | | | |
| 令和8年度 | 介護予防やフレイル予防、認知症者への理解、地域としての課題も含め、近隣者への意識を多世代が自分事として考え合える関係性の構築ができる。 | <ol style="list-style-type: none"> 高齢者団体、公民館等からの依頼のみならず組長会等からも介護予防やフレイル予防また認知症予防等の講習依頼が入るよう定期的に各地区の組長会等へ出席する。 小地域ケア会議や地域ケア個別会議の場にも地域代表として若い世代の方の参加も促していく。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 | | | |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|-----|
| 包括名 | ごてん |
|-----|-----|

| | |
|------|---|
| 課題番号 | ア |
|------|---|

| | |
|------------------------|---|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 問題が複雑化する前に発見・対応ができるためには、地域で何が必要なのか検討する場ができています。 |
|------------------------|---|

| | | |
|---|--|---|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| <p>独居高齢者の増加。身寄りなし。親族遠方の為契約、緊急時対応等の対応が困難なことが多い。内縁関係などどこまで法的に関りを持つのか、法的根拠も薄く対応に苦慮することがある。認知や精神疾患、8050問題など増えている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 問題が複雑化してから表面化するケースが多い。 8050問題等、重層的支援が必要なケースが増えているが、支援を拒む高齢者も多い。 内縁関係のパートナーとの同居というケースが増え、パートナーが要介護状態、認知症になり家族の課題が出てくるケースが増えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 人口18288人。高齢化率28%。 圏域内に長寿会は6団体あるが、各団体ともに登録者数、参加者数が減少している。 町内会を抜ける高齢者も増えていて、横とのつながりが希薄になっている。 自転車で移動する高齢者が多い。 福祉村はなく、各地域団体がそれぞれに支援している。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|---|--|---|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 長寿会、自治会、民生委員に対し、包括の役割周知を行う。関係機関と相談や情報共有しやすい関係を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①広報誌を作成し長寿会会員や通いの場サロンに配布、自治会掲示板への掲示依頼、SNSに掲載し包括周知を図る。 ②中原公民館まつり、南原公民館まつりに参加し包括チラシを配布し包括周知を図る。 ③サロンや長寿会、独居高齢者食事会に参加して包括周知を行う。 ④自治会や民生委員の定例会に参加し包括周知と情報共有を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ①年3回 (5月、8月、11月) ②2月、3月 ③④4月～3月 |
| 令和8年度 | 問題が複雑化する前に早期発見、早期対応することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ①自治会、サロン、独居高齢者食事会、民生委員定例会に参加して各団体と情報共有し早期発見に努める。 ②困難ケースは関係機関 (民生委員、民間会社、医療機関、介護事業所等) と情報共有する。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|-----------|
| 包括名 | サンレジデンス湘南 |
|-----|-----------|

| | |
|------|-----|
| 課題番号 | ア、イ |
|------|-----|

| | |
|------------------------|---|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | ①地域課題解決のための目標を地域の方と一緒に考えられる。②今ある生活支援を含めた地域活動の継続ができる。③高齢者と若い世代が地域課題を話し合う場ができている。 |
|------------------------|---|

| | | |
|---|---|---|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| 地域活動を担う方の高齢化や後継者の減少があり、近隣とのつながりも稀薄化している。また、今後地域の見守りや地域活動が十分に行えなくなることが予測される。そのため、様々な世代が地域課題を共有していけるような仕組みが必要となる。 | 今まで包括が関わっていない団体と、地域の強みや課題について共有する機会がなく、包括の役割を伝えられていない。そのため、地域全体として課題を検討していくことで、次世代につなぐきっかけを作る必要があるため。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域から、これ以上活動を増やすのは大変という声があがっている。 ・生活支援に関して、新規の受入れを行っていない地区があるが、現在行っている活動は継続できている。 ・地域で検討すべきことについて、地域全体で共有する機会がない。 ・地域活動を担う方、特に若い世代の関わりが少なくなっている。 ・築50年の大型団地や築30年以上の大型マンションが多く見られ高齢化が進んでいる。 ・大型ショッピングモールを中心に地域や学校との交流がある。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|---|--|---|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 地域活動を行なう上で地域の担い手不足解決のため、地域の方と一緒に考える。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 民生委員、福祉村、市、自治会などから、地域の集まりの場の情報を収集する。 2. 情報収集した地域の集まりの場の情報を一覧にする。 3. 今まで参加していなかった地域の集まりに参加し包括の周知を行い、地域活動について情報発信する。 4. それぞれの集まりの場でわかりやすいような包括の案内を作成し、配布する。 5. 地域課題の解決に向けて協力できる団体について関わり方を検討する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 4月～3月 2. 9月 3. 4月～3月 4. 4月～3月 5. 4月～3月 |
| 令和8年度 | <p>様々な世代が参加し、地域課題について話し合える場がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力できる団体の集まりに参加している。 ・小地域ケア会議を各地区で行なう。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 各地区で小地域ケア会議を開催する。 2. 今まで関わりがない団体の集まりに参加する。 3. 地域課題について、包括と地域で共有できていて意見交換をする。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | | | | | |
|--|--|--|--|------|-----|
| 包括名 | とよだ | | | 課題番号 | ア・イ |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 60～70歳代の地域住民から、包括への相談件数が増えている。 | | | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | | | |
| 地域内に、高齢者介護等の相談が出来ずに困っている人が少しでも減る様、包括が身近な所に存在している事を、特に60～70歳代の地域住民に知ってもらう必要がある。 | 60～70歳代だと、就労中だったり、かかりつけ医も居ないと同時に、包括の存在を知らない人が思ったよりも多いという実態を、健康状態不明者訪問を通して把握する事が出来た。課題解決に向けての早期発見・対応が可能となるには、本人・家族・地域等からの相談先に包括が在る事を、自身や親の介護相談が現実的になる世代(60～70歳代)に知ってもらう必要が有るため。 | 転入者や核家族の増加等により、地域との繋がりや高齢者の課題への関心が希薄になっている面がある。60～70歳代だと、まだ就労中で、包括の存在を知らない人も居るし、かかりつけ医を持っていない人も多い。それらにより、課題が拡大・複雑化してからの支援開始となり、課題解決が困難となる事もある。 | | | |
| 5 実施計画 | | | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 | | |
| 令和7年度 | 特に60～70歳代の人に、包括の周知が出来るための活動が実施出来ている。 | <ol style="list-style-type: none"> 60～70歳代の人が集まる場に向け、包括の業務内容等に関する周知活動を実施する(商店・郵便局・金融機関・医療機関等へ年1回以上の訪問)。 60～70歳代の人に向け、包括の業務内容や健康増進等に関する周知活動を実施する(毎月の広報誌発行等)。 より多くの人が集まる場(公民館祭、サロン等)に参加し、包括の業務内容や健康増進等に関する周知活動を実施する。 | <ol style="list-style-type: none"> 4月から3月 4月から3月 4月から3月 | | |
| 令和8年度 | 特に60～70歳代の人から、自身や親の介護・健康増進等に関する相談が増え、課題の早期発見・対応につなげる事が出来ている。 | <ol style="list-style-type: none"> 60～70歳代の世代が集まる場(商店・郵便局・金融機関・医療機関等)への定期訪問を継続していくなかで、訪れる人の傾向(世代や課題等)を聴取する等し、それを反映した内容の周知活動を実施する。 新たに、包括による連携依頼が必要な場(地域団体・企業等)の有無等について、地域の関係機関等との協議を実施する。 「包括への相談内容」「相談者の年代」「未受診率」等、地域の傾向を把握し、それを反映した内容の周知活動を実施する(広報紙の記載内容等)。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 | | |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|--------|
| 包括名 | ひらつかにし |
|-----|--------|

| | |
|------|-----|
| 課題番号 | ア、イ |
|------|-----|

| | |
|------------------------|--|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 早めの介護予防・早期発見につながるように包括主催のサロンの場に新たな参加者が増えている。 |
|------------------------|--|

| | | |
|--|--|---|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| 地域特性によって身体状況と住環境がマッチしなくなってきたことや、家族と疎遠で、サービスや用具などの導入が困難な場合があるため、早めに発見し支援につなげる必要がある。 | 支える方も高齢で支えきれなくなって相談に来るケースが多々あり、早期に発見・支援を開始する必要があるため。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学生街のため、家賃が比較的安い物件が多い。また、経済的に課題を抱えた方の相談が多い。 ・地域住民同士で自助、共助で支えていたが、支えきれなくなってから包括への相談につながるが多い。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|--------------------------------|--|-------------------|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | ・早めの介護予防・早期発見ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・サロンや地域のイベントに参加し顔が見える関係づくりをする。必要な方には訪問をする。 ・サロンに来れない参加者でも来れるように周知を行っていく。 ・自治会や民生委員等の地区の団体と情報共有し、見守り・早期発見につとめる。 | 4月～3月 |
| 令和8年度 | ・どのような住環境であっても必要なサービスが受け続けられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問した人に必要な支援に結び付けていく。適切な住居の紹介や家族の支援を受けられるようにしていく。 ・自治会や民生委員等の地区の団体と情報共有し、見守り・早期発見につとめる。 ・適切な用具類の情報を提供できるよう情報収集する | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|------|
| 包括名 | 富士白苑 |
|-----|------|

| | |
|------|-----|
| 課題番号 | (ウ) |
|------|-----|

| | |
|------------------------|--|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 前期高齢者を中心に包括の役割や地域ネットワーク構築が必要であることが周知され、既存のサロンが継続できる。 |
|------------------------|--|

| | | |
|--|--|--|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| 民生委員、自治会、ボランティア、サロン参加者など地域の担い手の高齢化が進み、世代交代が難しいため、地域活動の担い手不足が深刻化している。 | 長年活躍してきた地域の担い手の高齢化が進み、活動人数が減少している。若い世代の参入もないことから、世代交代が難しく、地域サロンや老人会の継続が困難になっていくことが予測される。サロンの継続や新たなネットワーク構築のため、地域へアプローチしていく必要がある。 | 圏域の総人口：25,992人、高齢者人口：7,002人、高齢化率27% 高齢者人口の約半数が75歳以上。高齢者調査の対象は約800人 花水地区(8自治会)、なでしこ地区(7自治会)の2地区がある。 高齢になり役員ができないという理由で自治会を辞める人も増えている。2地区それぞれに福祉村があり、様々な活動をしているが、役員、ボランティア共に高齢化が進み、後継者の確保が困難となっている。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|---|--|--------------------------------------|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 様々な地域活動に参加し、包括の役割の周知や地域の実情把握が行えている。 | 1. 多世代が集まる地域活動に参加し包括の役割を周知する。(お祭りや会議など) 2. 各世代の困り事や地域の実情を把握する。 3. 民生委員、自治会、福祉村などの地域団体や介護関係機関と連携し、地域課題について情報収集と共有を行う。 | 1. 4月から3月 2. 4月から3月 3. 10月から3月 |
| 令和8年度 | 多世代で意見交換する場をつくり、地域の実情や地域課題について話し合うことができる。 | 1. 地域団体、介護関係機関との情報交換や連携を継続する。 2. 地域団体と協力して、若い世代に参加してもらう方法について話し合う。 3. 地域課題について多世代で意見交換する場を設ける。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|-----|
| 包括名 | ふじみ |
|-----|-----|

| | |
|------|---|
| 課題番号 | イ |
|------|---|

| | |
|------------------------|--|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 地域のニーズに応じたサロンを開催できる場所を各地域団体とすり合わせることができ、新たな開催場所の計画ができています。 |
|------------------------|--|

| | | |
|--|--|--|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| 圏域内のほぼ中央に位置した場所に事務所があり、公民館や福祉村も近いので体操教室など開催しやすいが、拠点となる場所が中央に集中しているため、徒歩で来ることのできない高齢者が多い。またMCIや認知症の人が一人で行事やサロンへ参加することが難しい現状がある。 | 公民館、福祉村を中心に活動を行っているが拠点が中央に偏っているため富士見地区全体の高齢者がまんべんなく参加することができない状況にあるため。 | 老人会の活動が行えていない地区もあり、そのような地区では高齢者の活動場所が無い。回覧板で包括の配布物を見てサロンなどに興味を持って、歩いて行けないという意見を聞くことが多い。MCIや認知症の人が一人で行事やサロンへ参加することが難しい。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|-----------------------|--|----------------------------|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 「活動の場作り」のニーズ調査を行う | ①調査方法や調査時期の計画を立てる ②各地域団体へ調査方法・調査時期について提案し、協力依頼を行う ③各地域団体、包括とで役割分担を決め、調査を実施する | ①4月～6月 ②7月～9月 ③10～3月 |
| 令和8年度 | ニーズのすり合わせを行い、計画案を作成する | ①前年度に実施した調査内容について集計を行う ②集計結果から計画案を作成する ③計画案を各団体と協議する | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | | | | | |
|---|---|---|--|------|---|
| 包括名 | まつがおか | | | 課題番号 | ア |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 8050世帯等複数課題を抱えたケースを地域で見守り、支援機関と情報共有し、それぞれ役割をもって対応することができる。 | | | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | | | |
| 8050世帯は支援に繋がりにくく、問題が大きくなってから表面化する事が多いため、支援が困難である。 50代前後の子や精神疾患、認知症、ひきこもりなどの複数課題を抱えたケースへの見守りと関係機関の連携強化を図る必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・8050世帯や複数課題を抱えたケース等の相談先や支援方法がわからず、対応が困難と感じる事が多い。 ・相談先が整理され、関係機関の連携が強化されることが必要と思われる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者人口：2508人 高齢化率：32.7% ・80代の親が50代前後の子を隠そうとしてしまい、支援につながりにくくなっている。 ・貧困、支援者不在、キーパーソン不在など多くの課題を抱えているケースが多い。 ・周囲は心配してるが、本人たちが支援を必要と思っておらず介入ができない状況になっている。 ・50代前後の子に訪問して関わってくれる機関がなく、相談先が整理されていない。 | | | |
| 5 実施計画 | | | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 | | |
| 令和7年度 | 精神疾患、ひきこもり、発達障害など相談先が整理されている。民生委員や福祉村等地域の関係機関に8050等複数課題を持つ家庭は、問題があり対応が必要なケースという共通認識をもってもらう。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患、ひきこもり、発達障害など相談先の整理を行う。 2. ケアマネジャー、民生委員、福祉村等地域の関係機関に相談先一覧を配布する。 3. ケアマネジャー、民生委員、福祉村等地域の関係機関に8050等複数課題を持つケースに対する問題意識をもってもらえるようリーフレット等を配布する。 4. 職員が研修を受講し相談対応や支援方法などを学ぶ。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 4月から9月 2. 9月頃 3. 適宜 | | |
| 令和8年度 | それぞれの機関が役割を持ち、情報共有をして対応することが出来る。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 関係機関と情報共有を行い連携を強化していく。 2. チラシ等を作成し80世代に向けて50代前後の子の相談先について周知する。 3. 民生委員を小グループ(地区)分けし、年一回は情報共有、交換をする機会を作る。 4. 関係機関と定期的にフィードバックを行い、ケースの終結までを把握できるようにする。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 | | |

<重点目標>【地域課題】

| | | | |
|--|--|---|---|
| 包括名 | みなと | 課題番号 | (ア) |
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 地域におけるサロンなど社会参加の場を把握すると同時に情報の見直しを行うことで、住民がタイムリーな情報を得て地域で活躍できる場を自ら選ぶことができる。 | | |
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 | |
| 比較的活動性を保っている高齢者でも、金銭的余裕がないと社会参加を勧める場がない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険利用ではない社会参加の場について、問い合わせが増加しているので対応する必要がある。 ・社会参加の場に職員全員がかかわることで、住民のニーズを把握・共有することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話を楽しめる場や活動を行えるサロンを利用したい旨の問い合わせが増加しているが、対応しきれず包括が実施しているサロンが主流となっている。 ・サロンや講座など問い合わせしてみても条件に合わない場合が多い。 ・通いの場や公民館などの教室やサロンは、人間関係が出来上がっていて、新しい人が参入しにくいという声がある。 ・インフォーマルな社会資源の把握ができていない。 | |
| 5 実施計画 | | | |
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | <p>公民館や通いの場の特徴や、社会資源としての現況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動やサロンの内容や方向性、利用した感想や新規加入に積極的かなど把握し、地域住民に具体的に紹介できるようになっている。 ・把握したものを地域の傾向や課題としてサロン主催者などと共有し共有することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ①港地区の通いの場及び須賀公民館で開催されている活動やサロンを拾い出し、連絡・訪問方法や調査の記録・評価基準、集約の方法などを包括内で協議する。 ②参加者の声や問い合わせの住民の声の記録も包括内で協議する。 ③手分けして問い合わせ・訪問（見学）・評価を行い記録する ④記録したものを集約してサロン主催者などと共有する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①4月～5月 ②4～5月 ③6月～3月 ④1月～3月 |
| 令和8年度 | <p>地域住民が活躍できる場を、自ら選ぶことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館や通いの場以外の社会資源の現況も把握し、地域住民に具体的に紹介できることで、住民の選択の幅が広がっている。 ・サロン主催者などと連携ができるようになり、地域住民のニーズなども共有することができる。 ・社会資源の選択肢を定期的に見直し、更新された内容を地域住民に提供できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ①令和7年度に作成したリストを基に公民館活動と通いの場以外の活動の場のリサーチについて包括内で検討し、令和7年度の調査方法に準じて調査を行う。 ②令和7年度と同様に通いの場及び須賀公民館で開催されているサロンの訪問参加を行い、変更点などないか調査し住民ニーズなどを共有する。 ③作成したリストを活用する。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |

<重点目標>【地域課題】

| | |
|-----|------|
| 包括名 | ゆりのき |
|-----|------|

| | |
|------|---|
| 課題番号 | イ |
|------|---|

| | |
|------------------------|--|
| 1 中期目標 (令和8年度の目指す姿) | 崇善・松原地区ごとに、地域の団体等と高齢者の孤立・閉じこもり防止に向けたネットワークづくりに取り組み、高齢者が参加できる場や交流の機会が増えている。 |
|------------------------|--|

| | | |
|--|---|---|
| 2 地域課題 | 3 地域課題の選定理由 | 4 地域の現状 |
| 重篤化してから相談につながるケースが増えており、高齢者の孤立・閉じこもり防止に向け、フレイル予防や相談窓口の周知啓発と支援に繋げるために、地域のネットワークを広げる必要がある。 | マンションに転入してくる高齢者が多く、地域との交流がない方や乏しい方が多い地区である。そのため、孤立・閉じこもり防止、フレイル予防に向けた取り組みが必要である。また、ゆりのき予防サロンのアンケートでは、「人と話す機会がない」という回答者が少なからずいる。 | ・崇善地区、松原地区は平塚駅に隣しており、マンションが多く建設されている。都心への通勤にも便利で公共機関が近く商業施設もあり若い世帯も多いが、高齢者の転入も多い地域である。崇善地区は、人口が増加している。 ・平塚市の世帯人数平均は2.2人であるが、ゆりのきが担当する崇善地区は平均1.83人、松原地区は平均2.09人と市の平均以下である。ひとり世帯が多い地域と捉えている。 |

| 5 実施計画 | | | |
|--------|--|---|--|
| | (1) 短期目標 (年度ごとの目指す姿) | (2) 取組予定 | (3) 予定時期 |
| 令和7年度 | 地域の団体等と連携し、高齢者の孤立・閉じこもり防止に向けた取り組みを行ない普及啓発ができている。 | 1 崇善地区においては、高齢者の孤立・閉じこもり防止や相談窓口の普及啓発のチラシを作成し、地域の団体・関係機関等と共に、高齢者に普及・啓発を行う。 2 松原地区においては、令和6年度に検討してきたチラシを配布し、あいさつ運動と絡めて孤立・閉じこもり防止に向けた普及啓発を地域の団体・関係機関と調整する。 3 関係機関等に高齢者の孤立・閉じこもり防止に向け、フレイル予防と相談窓口の周知を行い普及啓発に取り組む。 | 1 崇善地区：4～7月、チラシ作成。 8月頃～チラシ配布。 2 松原地区：4月からチラシ配布 3 通年 |
| 令和8年度 | 令和7年度の普及・啓発について評価を行い、地域の団体等と高齢者の孤立・閉じこもり予防のネットワークづくりの取り組みが出来ている。 | 1 普及・啓発の実施状況を小地域ケア会議で共有し、引き続き地域の課題解決に向けた検討を行う。 2 地域の団体等に、高齢者の孤立・閉じこもり防止に向けてフレイル予防と相談窓口の周知を行い、早期に相談に繋がるための地域のネットワークづくりに取り組む。 3 高齢者の孤立・閉じこもり防止に向け、フレイル予防と相談窓口の周知先を増やしネットワークづくりに取り組む。 | 【令和8年度事業計画作成時に記入】 |